

ジュニアドクター育成塾における WOWW アプローチ導入の試み An attempt to introduce the WOWW approach at a junior doctor training academy

○相模健人^{*1}, 池田裕亮^{*2}, 菊池ほの香^{*2}, 藤井あかり^{*2}

SAGAMI Takehito^{*1}, IKEDA Yuusuke^{*1}, KIKUCHI Honoka^{*2}, FUJII Akari^{*2}

^{*1}愛媛大学教育学部, ^{*2}愛媛大学教育学研究科

^{*1}Faculty of Education, Ehime University, ^{*2}Graduate School of Education, Ehime University

【要約】本研究ではジュニアドクター育成塾において、参加児童生徒の興味、関心を一定にしたいジェネラリスト育成の観点から WOWW アプローチを導入し、効果があったと考えられる3事例を提示し、その意義と課題について考察することを目的とした。全20回の講座の内、6回において3名のコーチが実施し、全体のフィードバックと終了後にコメントカードを配布した。参加児童生徒には講座終了後に育成したい人材像ごとにスケールリング・クエスチョンを行い、評価理由と次回目標について尋ねた。3事例の検討から参加児童生徒にスケールリング・クエスチョンの評価理由や次回目標を書いてもらうことにより、授業の振り返り、省察に繋がっていること、WOWW アプローチでコーチたちが全体、個別にコメントしていくことにより、参加児童生徒が育てたい人材像に向かって努力するサポートが行えていることが考えられた。今後の課題としてよりきめ細やかな実践が考えられる。

【キーワード】ジュニアドクター育成塾, WOWW アプローチ, スケールリング・クエスチョン, コメント

I. はじめに

愛媛大学ではこれまでジュニアドクター育成塾を行ってきた。ジュニアドクター育成塾とは「科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力のある小中学生を発掘し、さらに能力を伸長する体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援」(科学技術振興機構, 2015)することを目的としている。愛媛大学では毎年度ごとに小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒を第1段階受講生として40名募集し、原則土曜日に3時間の講座を行っている。ジュニアドクター育成塾を行っていく中で、参加児童生徒の興味、関心がばらつくことがジェネラリスト育成の観点から課題とされた。なるべく参加児童生徒の興味、関心を一定にして参加してもらうための援助の一つとして、解決志向ブリーフセラピー(Solution-Focused Brief Therapy: De Jong, Berg, 2016)を元にしたWOWWアプローチ(Working on What Works: うまくいっていることに取り組む、の略)を導入する試みを本研究では行った。

解決志向ブリーフセラピーは心理療法の1種であり、実現可能な目標を立て、それを実現していく際に例外を重視する(De Jong, Berg, 2016)。その際の技法としてコメント(Compliment)が行われる。コンプリ

メントとは「クライアントが語り、感じ、そして信じていることをカウンセラーが承認し、そしてカウンセラーとクライアントとを結び付けている多様な問題に対して彼らが示している態度を肯定し、敬意を表すプロセスである」(Berg, 1994)と定義されている。WOWW アプローチは解決志向ブリーフセラピーにおけるコメントを教育現場に活用し、「クラスの教育の質に働きかける」(Berg, Shilts, 2004)アプローチである。WOWW アプローチでは授業に教員、児童生徒に加えて、コーチが参加することが特徴である。コーチは児童生徒の授業態度を見て、コメントを中心としたフィードバックを行う。それを元に児童生徒自らが目標を立て、それを目指してスケールリング・クエスチョン(Scaling Question, 以下SQ)を元にした振り返りをクラスで行っていく。先行研究ではWOWW アプローチの効果として教師の評価として生徒が行儀よくしていた報告(Kelly, Kim, Franklin, 2008)や、対人信頼感、自尊感情が高くなること(関山, 神田, 久能, 2007), 学級生活に満足を感じる児童の増加(田島, 相模, 2011)といった結果が見られ、個人の介入としても青柳, 相模(2014)は適応指導教室において不登校生徒に導入し、再登校に至った事例を紹介している。WOWW アプローチを導入することで、ジュニアドクター

育成塾に参加する児童生徒の興味、関心や参加意欲が高まることが予想され、本研究の導入に意義があると考えた。

以上のことから本研究では前述のジュニアドクター育成事業において WOWW アプローチを試験的に導入し、効果があったと考えられる3事例を提示し、その意義と課題について考察することを目的とする。

II. ジュニアドクター育成塾について

愛媛大学ジュニアドクター育成塾では前述のように行われており、対象としたX年度は小学校5年生から中学3年生の46名の児童生徒が参加した。X年7月から3月まで20回(開校式、閉校式を除く)行われた。愛媛大学ジュニアドクター育成塾では育成したい人材像として以下を掲げている。

- ・既存の科学についてブレークスルーとなる疑問を持つ：「なぜを問う力」
- ・疑問の解決のために様々な挑戦を行う：「なぜを問う力」
- ・得られた結果について多角的にねばり強く考える：「考える力」
- ・自らの考えを突き詰めシンプルな問いに帰結する：「考える力」
- ・自らの知見を他者にわかりやすく表現する：「表現する力」
- ・得意・不得意とは関係なく、他者の知見を理解し、吸収する：「表現する力」
- ・課題に対して他者と協働して解決する：「協働する力」
- ・科学という共通言語を通して、多くの人と協働する：「協働する力」
- ・未来に繋がる科学者ネットワークを形成する：「協働する力」
- ・よりよい社会と人生を構築する基礎となる人間性：「学びに向かう力」
- ・SDGsや地域に適した社会の構築ができる人間性：「学びに向かう力」

III. 方法

1. WOWW アプローチについて

WOWW アプローチ実施については全20回の講座の内、6回において3名の大学院生によるコーチ(池田、菊池、藤井)が実施した。対象年度は第1段階の受講であっ

た。コーチたちが講座を観察し、全体でのフィードバックを行い、後日、コーチがロイロノートを通じて個別に参加児童生徒にコンプリメントを行ったコンプリメントカードを配布した。

2. SQ を用いた調査

参加児童生徒には「振り返りシート」を用いて、講座内容への関心と前述の育てたい人材像ごとにSQを行い、その評価理由と次回目標を書いてもらった。「振り返りシート」の内容は以下の通りである。

- ①今日の内容はどのくらい関心がありましたか？当ではまるなあとと思う数字に○を付けてください。1が関心がない、10がとても関心があるとすればいくつですか？
- ②今日は「なぜ？を問う力」の目標がどのくらい達成していたか質問します。1が目標が全く達成できていない時、10がだいたい目標が達成できているとすればいくつですか？
- ③今日は「考える力」の目標がどのくらい達成していたか質問します。1が目標が全く達成できていない時、10がだいたい目標が達成できているとすればいくつですか？
- ④今日は「分かって、伝える力」の目標がどのくらい達成していたか質問します。1が目標が全く達成できていない時、10がだいたい目標が達成できているとすればいくつですか？
- ⑤今日は「みんなと協力して解決する力」の目標がどのくらい達成していたか質問します。1が目標が全く達成できていない時、10がだいたい目標が達成できているとすればいくつですか？
- ⑥今日は「学びに向かう力」の目標がどのくらい達成していたか質問します。1が目標が全く達成できていない時、10がだいたい目標が達成できているとすればいくつですか？
- ⑦②-⑥は どんなことができていたからその数字になりましたか？
- ⑧②-⑥の数字があと一つ上がるためにどんなことをする必要がありますか？

3. 倫理的配慮

WOWW アプローチ実施にあたっては愛媛大学教育学部研究倫理委員会の審査を受けて行った。事例提示については本人及び保護者に論文をご確認いただき、署名を得て愛媛大学教育学部研究倫理委員会の審査(受

付番号 R5-34) を受けた。

IV. 事例提示

本研究では代表的な事例を3事例提示する。変化が見られる場面について振り返りシートの記述、WOWW アプローチを行った回では全体のフィードバックの事例に関係すると考える箇所(Aに記載)、コメントカードの記述を以下に記す。なお、紙数の都合ゆえ、15回目までの記入を対象とした。

1. A(中学2年生女子)

初回(X年7月)

振り返りシート:①9②10③9④9⑤8⑥8⑦②のなぜ?を問う力では、写真をとる時に常に「なぜこの動物はこんな動きをしているのか?」「なぜ檻の中にこんな物があるのか?」と考えられたので、10番にしました。③の考える力では、皆が疑問に思ったことを発表している時に、自分も一緒に考えられたので、9番にしました。④の分かって、伝える力では、写真をとる時に班の子と「この動物はこんな理由でこうしているのだよね。」と意見を言い合えたので9番にしました。⑤の皆と協力して解決する力では、特定の子としか話せなかったため、8番にしました。⑥の学びに向かう力では、自分で新しい問いを見つけられなかったため、8番にしました。⑧考える力を10にするために、もっと自分の中で考えようと思いました。分かって、伝える力を10にするために、次はもっと自分の意見を言おうと思います。皆と協力して解決する力を9にするために、次はいろんな子と話そうと思います。学びに向かう力を9にするために、次からは常にいろんな事に疑問を持ち、自分なりの問いを見つけようと思います。

2回(X年8月) WOWW アプローチ初回

振り返りシート:①10②9③10④10⑤10⑥9⑦②のなぜを問う力では、メダカの卵がナザこのような順番になるのかを考えながら並べられたので、9番にしました。③の考える力でも、メダカの卵の順番をしっかりと考えることができたので10番にしました。④の分かって、伝える力では、メダカの卵成長の順番をしっかりと理解し、班の子と考えを伝え合うことができたので10番にしました。⑤のみんなと協力して考える力では、ゾウリムシの見方をみんなで考えて、観察する時も協力できたので10番にしました。⑥の学びに向かう力では、ゾウリムシがなぜ光るのか、という問いしか考え

られなかったため9番にしました。⑧②のなぜ?を問う力を10にするために、疑問を持ったら常に自分の中で仮説を立てるようにしたいです。⑥の学びに向かう力を10にするために、常に疑問を持って活動するようにしたいです。

全体のフィードバック:(中略)Aさん他3名は先生の言ったことをメモしていました。(中略)Aさん他6名は点描が丁寧にスケッチをしていて、きれいだなと思いました。(中略)Bの班のみんなは「やりましたー?」と言って確認しながら進めていて、チームで協力して話し合っていて取り組んでいるなあと感じました。Aさん他3名は観察した絵がきれいに描いているなあと感じました。(中略)来週中にはコメントシートが届くので、また見てみてください。

コメントカード:こんにちは。最初先生の話のときにメモを取っていて聞く姿勢がすごいと思いました。スケッチも細かく丁寧に描いていてしっかり見ていると思いました。今後も先生の話をお聞きするときや観察し、記録するときにもまた続けてみてください。

3回(X年8月) キャンプ初日

振り返りシート:①10②10③10④10⑤9⑥10⑦②の「なぜを問う力」では、昆虫の講義・実習のとき、「なぜ特定のチョウがこんなにいるのか」など考えることができたので10にしました。また、天体観測のときも、「なぜこの星座はこんな名前なのか」などを考えることができました。③の考える力では、1番で思ったような疑問の答えを自分なりに考えられたのでこれも10にしました。④の「分かって、伝える力」では、採集した昆虫の名前を調べるとき、その虫の特徴から判断して皆に伝えることができたので10にしました。⑤の「みんなと協力して考える力」では、3班の皆と協力して昆虫の名前をあてることができたので10にしました。⑥の「学びに向かう力」では、講座をしている先生の話を目の前で聞いたので9にしました。また、自分が知りたいことや興味があること、疑問に思ったことも考えることができました。でも、「それをどうやって調べるのか」など、その先を考えられませんでした。⑧⑥の「学びに向かう力」を10にするために、次からは常に疑問とそれをどう解決するかなど、自分の中でしっかり考えようと思います。

4回(X年8月) キャンプ2日目

振り返りシート:①10②10③10④10⑤10⑥10⑦②の「なぜを問う力」では、常に「なぜこの植物はこうい

う名前なのか？」と考えられたので10にしました。③の考える力では、「植物の特徴から、自分ならこの植物になんて名前をつけるか」などと考えられたので10にしました。④の「分かって、伝える力」では、草の名前を理解してみなに伝えたりできたので10にしました。⑤の「みんなと協力して考える力」では、みんなと協力して草花の名前を考えられたので10にしました。⑥の「学びに向かう力」では、「他の草花の名前や特徴をもっと知りたい。」などと思えたので10にしました。⑧記載なし

5回(X年8月) WOWW アプローチ2回目

振り返りシート:①10②8③10④9⑤9⑥9⑦②の「なぜを問う力」では、なぜ新聞のつくりが決まっているのか?や、なぜ記事の整理整頓が大切なのか、などを考えられたので8にしました。③の考える力では、どんな見出しにすれば面白いかな、どんな文が読みやすいかなど、いつもよりたくさんのことを考えられたので10にしました。④の「分かって、伝える力」では、自分が分かったことを進んで発表できたので9にしました。⑤の「みんなと協力して考える力」では、新聞について友達と話し合い、よりよくするための努力ができたので9にしました。⑥の「学びに向かう力」では、新聞を作っている人に対しての疑問を常に考えられたので9にしました。⑧②の「なぜを問う力」では、もっとたくさん疑問を見つけるように常に努力することです。④の「分かって、伝える力」では、自信がなくてももっと積極的に発表することです。⑤の「みんなと協力して考える力」では、もっとたくさんの人と話すことです。⑥の「学びに向かう力」では、1番と同じで常に疑問を見つけられるよう努力すること、学んだことを生かせるようにがんばることです。

全体のフィードバック:お疲れさまでした。こんにちは。(中略)今日は新聞、マスメディアの一つとして新聞を取り上げられて、情報をどのように伝えるか、記事づくりを通して学ばれたかなというふうに思います。えっとワークや具体的な進め方の説明のときにはしっかり顔を上げて集中して進められていたなと思います。あの、1時からまもなく3時間近く経とうとしているのですが、本当に最後まで集中力とぎらせずしっかり頑張られていたなと感心しました。(中略)こちらは中学校の会場ですが、あの、本当に落ち着いた態度で臨めていたなと思います。また、段々慣れていくに連れて、こうしっかり手を上げて進んで発表

できている人が増えたことも、印象的でした。で、最初の方で特に指名された何名かの人は最初、すごく緊張したかなと思うのですけれども、しっかりと自分なりの答えを黙ったままではなく伝えられていたのはとても素晴らしいなと思いました。(中略)今日ベルが鳴っていましたね。時間が限られたタイトな中であの一やっていた中でひよっとしたらうまく進められなかった人もいたのじゃないかなと思うんですけど、やっぱり新聞社の方って新聞を印刷して家庭に配ることを考えるんですけど、時間が限られた中で、正確な情報を分かりやすい言葉で、というお仕事をされているわけですね。その辺の難しさというのもの、今日しっかり感じ取られていたのじゃないかなあと思います。(中略)あとは各個人の良かったなと思うところは私の方でつかないのですけれども書かせてもらってまた送ろうと思いますので、ぜひ読んでいただけたらと思います。

コメントカード: こんにちは。授業冒頭から最後まで、しっかりとメモを取りながら説明を聞くことができていました。動物園のパンフレットを見ながら、丁寧かつ効率よく原稿づくりを進められていて、とてもすばらしかったです。

6回(X年9月)-11回(X年11月)

その後も振り返りシートの記述ではAは高い関心とSQの回答を維持し、コメントカードでメモをしている態度を取り上げていた。

12回(X年11月) WOWW アプローチ4回目

振り返りシート:①8②9③9④7⑤10⑥9⑦②の「なぜ?を問う力」では、戦国時代がなぜ始まったのかなど、いろいろなことに興味を持てたので9にしました。③の「考える力」では、考えた問いの答えを考えられたので9にしました。④の「分かって、伝える力」では、班の人と話せたので7にしました。⑤の「みんなと協力して解決する力」では、班の人と意見をまとめられたので10にしました。⑥の「学びに向かう力」では、進んでメモをとれたので9にしました。⑧②の「なぜ?を問う力」を10にするために、自分の苦手な分野も進んで考えるようにしたいです。③の「考える力」を10にするために、様々な可能性を考えられるようにしたいです。④の「分かって、伝える力」を8にするために、自分から進んで他の人と話せるように頑張りたいです。⑥の「学びに向かう力」を10にするために、先生からもらった資料は忘れずに全て読むようにした

いです。

全体のフィードバック：まず個人でAさんがみんなの発表や意見をメモしていて前に書かれている以外のことも書いていたのがよかったです。(中略)発表についてかなり多くの方が手を挙げていたと思うのですが、今日発表した人手を挙げてもらってもいいですか。これだけの人が手を挙げていたのはすごいと思います。全体については先生が言ったことに対してえーとか反応していたり、話し合いも一人一人が考えたことを発言していて、全員で授業に参加している雰囲気ができているなど思いました。さっき今日手を挙げた人を聞きましたが、出てきた意見に対して否定することなく、言いやすい雰囲気だったので自分から手を挙げる人が多かったのではないかと思います。(中略)今日はたくさん資料をもらったと思うので、まだ見きれない部分は思い出しながら家で見てください。

コメントカード：こんにちは。スライドの内容を、細かく丁寧にメモすることができていましたね。また、スライドの内容だけでなく、先生やみんなの意見もしっかりとメモできていてことが素晴らしかったです。よろしくお願いします。

13回(X年12月)-14回(X年12月)

変わらず振り返りシートの記述ではAは高い関心とSQの回答を示していた。

15回(X+1年1月) WOWW アプローチ5回目

振り返りシート：①8②8③9④5⑤5⑥9⑦②の「なぜを問う力」では、「発酵とはどういう仕組みなのか？」など小さな疑問を持つことができたので8にしました。③の「考える力」では、先生が出した疑問を積極的に解決しようとしたので9にしました。④の「分かって、伝える力」では、自分が持っている疑問を理解してメンターさんに聞くことができたので5にしました。⑤の「みんなと協力して解決する力」では、友達と一緒に顕微鏡の使い方について復習することができたので5にしました。⑥の「学びに向かう力」では、ヨーグルトの作り方が気になったりと色々なことに興味を持てたので9にしました。⑧②の「なぜを問う力」を9にするために、自分が苦手な分野でも積極的に疑問をもてるようになることです。③の「考える力」を10にするために、もっと復習予習をしてある程度の知識をつけるようにすることです。④の「分かって、伝える力」を6にするために、同じ班の人や周りの人と積極的に話せるようになることです。⑤の「みんなと

協力して解決する力」を6にするために、分からないことがあったら自分から聞きに行くことです。⑥の「学びに向かう力」を10にするために、小さなことにも疑問を持つ心をつくることです。

全体のフィードバック：こんにちは。今日授業を見させていただいた藤井です。

今日の授業では、顕微鏡や実験に使う道具が目の前にたくさんあったと思いますが、(中略)特に中学生のみなさんが高倍率でピントを合わせられていたり、顕微鏡でピントを合わせることができた人が他の人に教えてあげることができていたのも良かったです。実験を進める中で分からないところは、持参している教科書で確認したり、メンターさんや同じ机の子、同じ班の子に聞いたりしてきちんと確認できていました。(中略)今回は、タブレットで写真を撮ったり、メモをしたりと、タブレットを上手く使うことができていて、その上で授業の内容をまとめる力が伸びているなど感じました。これまでの授業でみなさんが学んできた力が身につけてきていることが伝わってきて、とても素晴らしかったです。

コメントカード：こんにちは。科学の教科書を持ってきていて、確認しながら実験を進めることができていて素晴らしかったです。先生のお話を自分なりにメモしてまとめることができていて良かったです。よろしくお願いします。

Aの考察

Aの記入の特徴としてはSQについて人材像ごとに評価理由と次回目標を詳しく書いていて、積極的姿勢が伺える。SQの評価も高いものが多く、キャンプ(3-4回)についてはほぼ満点となっている。初めてWOWWアプローチを行った第2回においてコーチが「最初先生の話のときにメモを取っていて聞く姿勢がすごいと思いました。スケッチも細かく丁寧にかけていてしっかり見ていると思いました。今後も先生の話の聞き方や観察し、記録するときにまた続けてみてください」と全体のフィードバックと同様にコメントした。この後の評価理由では『「なぜを問う力」では、昆虫の講義・実習のとき、『なぜ特定のチョウがこんなにいるのか』などと考えることができたので10にしました』(3回)『「なぜを問う力」では、なぜ新聞の作りが決まっているのかや、なぜ記事の整理整頓が大切なのか、などを考えられたので8にしました。③の考

える力では、どんな見出しにすれば面白いかな、どんな文が読みやすいかなど、いつもよりたくさんのことを考えられたので10にしました」(5回)といった記述が見られるなどAに次第に考える姿勢が身につけ始める記述が増えていた。また、興味は高いものの12回、15回(共に8)は若干落ちており、15回は他の回答も低いものが見受けられるが、コメントカード「科学の教科書を持ってきていて、確認しながら実験を進めることができている素晴らしいです」や全体のフィードバックで指摘していることで、次回目標に「②の『なぜを問う力』を9にするために、自分が苦手な分野でも積極的に疑問をもてるようになることです。③の『考える力』を10にするために、もっと復習予習をしてある程度の知識をつけるようにすることです」といった学び続ける目標が見られることはWOWWアプローチのコメントが生徒に効果を表していると考えられる。このように適切にコメントを行うことにより、Aの関心が維持され、積極的姿勢を失わずにいると考えられる。

2. B(小学6年生女子)

初回(X年7月)欠席

2回(X年8月)の振り返りシートの記入 WOWWアプローチ初回

振り返りシート:①8②8③8④8⑤9⑥9⑦⑧いろいろな問題とかが話をよく聞いて分かったし、ゾウリムシを見るときも、協力してできたと思うから。⑧考える力や伝える力について、話を聞いて理解するところまで考えられたら一つ上がれると思う。

コメントカード:こんにちは。スケッチが顕微鏡を見ながら丁寧にかけていましたね。気づいたことを1つだけではなく、たくさん書いてすごいと思いました。今後も観察して記録することがあると思うので、また続けてみてください。よろしくお願いします。

3回(X年8月キャンプ初日)

振り返りシート:①10②4③8④7⑤9⑥8⑦なぜを問う力では、疑問に思うことはあったけれど手を上げて質問することができなかつたので少し低めになりました。みんなと協力して解決する力では、昆虫の名前を図鑑で探しているときに意見を聞きながら協力して解決できたので高めになりました。⑧自己評価が低めのなぜを問う力は疑問に思ったことは手を上げて

質問して学習を身につけたらよいと思います。また、手を上げて質問すると、学びに向かう力も数字が一つ上がると思うので、まずは質問ができるようにする必要があります。

4回(X年8月キャンプ2日目)欠席

5回(X年8月)WOWWアプローチ2回目

振り返りシート:①9②8③10④8⑤1⑥9⑦協力して解決するのは今日についてはあまり無かつたので低くなつた。考える力では、新聞作りで考えながら作ることができたので高くなつた。⑧今回の新聞作りだけでなく、協力するときにも相手に分かりやすく伝えられたらいいと思う。

コメントカード:こんにちは。2枚目にいくぐらい下書きがしっかり書いてすごいと思いました。取りかきかきのはやく、新聞に書くのものはやかつたと思います。これからも気づいたことや考えたことを書くとき、何か作業をするときに続けてみてください。よろしくお願ひします。

6回(X年9月)

振り返りシート:①8②9③8④3⑤1⑥10⑦1階の展示室の自由時間に、学芸員の人に質問ができたし、スライドでもたくさんの情報を吸収できたから。⑧分かつて伝える力を上げるために、やはり手を上げて発表すると良いと思う。

7回(X年9月)欠席

8回(X年10月)WOWWアプローチ3回

振り返りシート:①9②8③10④8⑤7⑥9⑦考える力では、スケッチを描くときに、書くものをよく見て紙のどこに書いたら絵が収まるだろうかということを考えながら書くことができたので、高い評価になりました。⑧私は、一人で大体のことはやるけれど、その一人で行動することが良くないことになってしまったことがあつたので、団体行動のときは、みんなに合わせるようにしたいと思いました。

コメントカード:こんにちは。影の中でもより暗いところと少しだけ暗いところで分けて描けていましたね。屋外でスケッチをするときに、先生が最初に言っていた大まかに描いて後から付け足していくということができていて、話を聞いて実行しているところがすごいと思いました。これからも続けてみてください。よろしくお願いします。”

9回(X年10月)欠席

10回(X年10月)

振り返りシート:①9②8③9④7⑤9⑥9⑦今回の講座では、協力する力が最も重要だと思ったのでグループの人達と協力しながら活動ができたので、協力する力を高く評価できました。⑧分かって伝える力が他の評価より低めなので、次の講座では自分で納得して他の人に伝えていくことを意識したらいいと思いました。

11回(X年11月)欠席

12回(X年11月) WOWW アプローチ 4回

振り返りシート:①8②7③9④9⑤10⑥8⑦今日は、協力したり分かって伝えたりすることが多かったから、そのことを意識して授業が取り組めたから。⑧もっと自ら発表したら伝える力が高くなるので、今度は発表したいし、考える力も次どうなるのかとか先読みをしながら授業に取り組みたい。

コンプリメントカード: こんにちは。先生の話が始まったらすぐ前を向いてしっかり聞いていましたね。甲骨文字を読むときに隣の人と協力しながら進めているのもいいなと思いました。これからも班で協力して何かに取り組むことはあると思うので、続けてみてください。よろしくをお願いします。

13回(X年12月)- 15回(X+1年1月)

その後も関心は回によって前後しながらも SQ の回答は変化なく続いた、15回は欠席。

Bの考察

Bは各回により SQ の評価にばらつきがあった。評価理由や次回目標も各人材像にすべて記入するのではなく、評価理由は高いもの、次回目標は低いものと言ったものに限られることが多い。加えて欠席もあり、活動の連続性が得られにくいことも考えられる。

これに対して、初めて WOWW アプローチを行った第2回においてコーチが「スケッチが顕微鏡を見ながら丁寧にかけていましたね。気づいたことを1つだけではなく、たくさん書いていてすごいと思いました。今後も観察して記録することがあると思うので、また続けてみてください」や「2枚目にいくぐらい下書きがしっかり書いてすごいと思いました。取りかかりがはやい、新聞に書くのはやかったと思います。これからも気づいたことや考えたことを書くとき、何か作業をするときに続けてみてください」(5回、WOWW アプローチ 2 回目)とまとめやスケッチする姿をコンプリメントすることで「学芸員の人に質問ができたし、スライドでもたくさんの情報を吸収できたから」(6回の評価

理由)、『考える力』では、スケッチを描くときに、書くものをよく見て紙のどこに書いたら絵が収まるだろうかということを考えながら書くことができたので、高い評価になりました」(8回の評価理由)といったBになぜ、どうしてと考える姿勢が身についたと考えられる。

加えて「班のみんなは『やりましたー?』と言って確認しながら進めていて、チームで協力して話し合っ取り組んでいるなあと思いました。」(2回、WOWW アプローチ初回の全体のフィードバック)「先生の話が始まったらすぐ前を向いてしっかり聞いていましたね。甲骨文字を読むときに隣の人と協力しながら進めているのもいいなと思いました。これからも班で協力して何かに取り組むことはあると思うので、続けてみてください。」(12回、WOWW アプローチ 4 回目)といったコンプリメントを行うことで「今回の講座では、協力する力が最も重要だと思ったのでグループの人達と協力しながら活動ができたので、協力する力を高く評価できました」(10回の評価理由)や「今日は、協力したり分かって伝えたりすることが多かったから、そのことを意識して授業が取り組めたから」(12回の評価理由)といった協力する記述が増えていったと考えられる。このようにBの考え、協力する姿勢についてコーチがコンプリメントしていくことで効果的であったと考えられる。

3.C (小学6年生男子)

初回(X年7月)

振り返りシート:①8②7③7④5⑤5⑥8⑦自分の考えを持ちながらどうなるのかは考えたが伝えることや、協力することは自分的に少なかったから。⑧積極的に協力したり「なぜ?」と思う疑問を普段の生活の中からも見つけ出すこと。

2回(X年8月) WOWW アプローチ初回

振り返りシート:①8②7③8④6⑤6⑥7⑦聞いたことを父と母に口で説明できるようになった。⑧自分の課題を見つける。

コンプリメントカード: こんにちは。今日は途中からの参加で大変だったと思いますが、6班のみんなと協力しながら顕微鏡を見ていましたね。班のみんなと協力しながら何かをするのは今後もあると思いますので、次からもまた今日のようにやってみてください。また8月27日も見に来ますのでよろしくお願いします。

す。

3回(X年8月キャンプ初日)

振り返りシート:①10②8③7④7⑤7⑥9⑦⑦いろんなところに疑問をもつようにしたから。⑧みんなと協力して、考えを深めることをする必要があると思う。

4回(X年8月キャンプ2日目)

振り返りシート:①10②9③8④7⑤8⑥9⑦みんなと積極的に話し合うことができた。⑧発表がそんなにできなかったのだから次からは積極的に手を上げたい。

5回(X年8月) WOWW アプローチ2回

振り返りシート:①8②8③8④9⑤7⑥9⑦手を上げることができ、自分の意見を言うことができた。⑧自分の考えがより良くなるために考えをももう一度考え直したり他の視点から考えてみたりする。

コンプリメントカード: こんにちは。先生の話が始まったらすぐにメモをとるようにしていていいなと思いました。また、記事の中のキーワードを全ての枠にかけていたところがすごいと思いました。これからも先生の話の聞くときや、書くときに続けてみてください。よろしくお願いします。

6回(X年9月)-11回(X年11月)

その後も振り返りシートの記述ではCは高い関心とSQを維持し、コンプリメントカードでは観察している態度を取り上げていた。7回は欠席。

12回(X年11月)の振り返りシートの記入 WOWW アプローチ4回

振り返りシート:①7②7③8④7⑤8⑥9⑦みんなと話すことができた。⑧自分の考えを前に出す。

コンプリメントカード: こんにちは。話し合いの時に、班の子の意見を聞いてから、自分の意見を言うことができていましたね。また、他の班がいま何をしているのかを見て、やるべきことを判断できているのが素晴らしいです。よろしくお願いします。”

13回(X年12月)-14回(X年12月)

振り返りシートの記述ではCは⑤のSQの回答が他と比べ低くなっていたが、他は高くなっていた。

15回(X+1年1月)の振り返りシートの記入 WOWW アプローチ5回

振り返りシート:①8②7③9④8⑤8⑥9⑦疑問を持ちながら、活動することができたから。⑧自分の考えを伝えたりする。

コンプリメントカード: “こんにちは。タブレットを上手に活用して実験ができていましたね。次の作業に

移る時にはタブレットをしまっけて切り替えができていてすごいなと思いました。メンターさんにカバーガラスや鉛筆をもらったときに、きちんとお礼を伝えていて素晴らしかったです。よろしくお願いします。

Cの考察

CはSQの評価は全般的に高く、評価理由、次回目標も具体的であった。例えば初回では評価理由が「自分の考えを持ちながらどうなるのかは考えたが伝えることや、協力することは自分的に少なかったから」、次回目標が「積極的に協力したり『なぜ?』と思う疑問を普段の生活の中からも見つけ出すこと」といった記述で簡潔ながらもC自身ができたこととこれからしたいことを明確にしていた。このようなCに対してコーチは「班のみんなと協力しながら顕微鏡を見ましたね。班のみんなと協力しながら何かをするのは今後もあると思いますので、次からもまた今日のようにやってみてください」(2回、WOWW アプローチ1回目)「話し合いの時に、班の子の意見を聞いてから、自分の意見を言うことができていましたね。また、他の班がいま何をしているのかを見て、やるべきことを判断できているのが素晴らしいです」(12回、WOWW アプローチ4回目)といったグループ活動での協力的な姿勢をコンプリメントした。このようなコンプリメントを受けてCの次回目標の記述に「みんなと協力して、考えを深めることをする必要があると思う」(4回)や評価理由に「みんなと積極的に話し合うことができた」(4回)といったグループ活動の記述が多くなった。このように協力する姿勢を取り上げてコンプリメントすることで、「みんなと協力して解決する力」が身についたと考えられる。

V. 考察

1. スケーリング・クエスチョン

本研究ではジュニアドクター育成塾の各回の取り組みについてSQを用いて振り返ってもらった。本研究での試みでは従来のWOWWアプローチにおける自らの目標設定は行えていないため、ジュニアドクター育成塾が目指す人材像5つをそのままSQとして設定している。SQの活用について考えたい。

Aについては前述の通り、育てたい人材像ごとに評価理由を書いており、丁寧な振り返りができているものとする。次回目標も10に至っていない項目を書

き、明確に次回に意欲を持って、臨んでいけたと考えられる。それゆえにSQも高い評価のものが多く、高い水準を維持できたと考えられる。BやCはAよりは簡潔なものが多いが、SQを行うことにより、講座を振り返っている。参加児童生徒にSQの評価理由や次回目標を書いてもらうことにより、授業の振り返り、省察に繋がっていると考える。

しかし、評価項目が多くなっていることで児童生徒が評価理由、次回目標ごとに丁寧に振り返ることが難しくなっている。相模(2015)の大学教育におけるWOWWアプローチに関する実践では学生自ら目標を設定することの重要性が挙げられている。今後は児童生徒自らで目標を設定することでより振り返る事ができる可能性があり、検討が必要になると考えられる。

2. WOWW アプローチ

次に本研究で行ったWOWWアプローチについて検討したい。本研究では従来のWOWWアプローチと比べて、前述した目標設定やフィードバックにコーチが入る回数など簡素な形式で行っており、その効果は限定的なものであると考えられる。しかし個人をコンプリメントカードでコンプリメントすることで児童生徒が意欲を持って次回に参加できるようになっていることが考えられる。Aの事例ではコンプリメントカードでコーチがメモしていることをコンプリメントすることでAに次第に考える姿勢が身につき始める記述がSQの評価理由に増え、「考える力」に影響があったと考えられる。Bの事例ではコンプリメントカードでコーチがメモや話を聞く姿勢、グループで協力している姿にコンプリメントすると、Bになぜ、どうしてと考える姿勢や協力する記述がSQの評価理由に見られ、「なぜを問う力」に影響があったと考えられる。Cについては協力する姿勢を取り上げてコンプリメントすることで「みんなと協力して解決する力」に影響があったと考えられる。Kelly, Liscio, Bluestone-Miller, & Shits(2012)はWOWWアプローチを行うことで報告申告済み欠席数、無断欠席数、遅刻数が少なくなることに於いて有意な結果が得られたと報告しており、本研究の3事例もジュニアドクター育成事業への参加意欲や意志に影響があったと考えられる。

3事例の検討のみであるが、WOWWアプローチでコーチたちが全体、個別にコンプリメントしていくことにより、参加児童生徒が育てたい人材像に向かって努力

するサポートが行えていると考えられる。こうした試みによりジュニアドクター育成塾自体への参加意欲が上がり、そのことが児童生徒自身の関心の偏りをなくし、ゼネラリスト育成への一助につながる事が期待される。本研究の試みでは限定的な関わりであったため、今後は回数を増やして、児童生徒の変化を丁寧にみていく関わりが求められると考えられる。

3. 今後の課題

本研究の試みではWOWWアプローチについて限定的な介入しか出来ておらず、その効果についても僅かなものと考えられる。しかし、検討する中で児童生徒の変化は確認でき、今後の発展が望まれると考える。今後、1で述べた目標を設定してのSQの実施や2.でのWOWWアプローチの介入の増加に加えて、SQの評価理由と次回目標についてコーチとの個別の振り返りも改善が必要と考えられる。

ジュニアドクター育成事業におけるWOWWアプローチの実践について、今後きめ細やかな実践が必要と考える。

引用文献

- 青柳潤子, 相模健人 (2014): 適応指導教室におけるWOWWアプローチの実践 日本ブリーフサイコセラピー学会第24回熊本大会発表論文集, 48.
- Berg, I. K. (1994): Family Based Service A Solution-Focused Approach. Norton: New York. 磯貝希久子監訳 (1997): 家族支援ハンドブック. 金剛出版. 221.
- Berg, I. K., Shilts, L. (2004): Classroom solutions, WOWW approach. Milwaukee, WI: BFTC Press. ソリューション・ワーカーズ訳 (2005): 教室での解決: うまくいっていることを見つけよう!. BFTC Press.
- De Jong, P., Berg, I. K. (2016): Interviewing for solutions, 4th Edition. Wales: Brooks /Cole, Cengage Learning. 桐田弘江, 玉真慎子, 住吉祐子訳 (2008): 解決のための面接技法 ソリューション・フォーカスト・アプローチの手引き【第4版】. 金剛出版
- 科学技術振興機構 (2015): ジュニアドクター育成塾ホームページ <https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/> (2024年2月20日確認)
- Kelly, M. S., Kim, J. S., Franklin, C. (2008): Solution-focused brief therapy in school: A 360-degree view of research and practice. New

York: Oxford University Press.

相模健人(2015):WOWW アプローチを受けた大学生の授業態度の改善過程 ブリーフサイコセラピー研究 24, 1, 17-25.

関山雅人, 神田恵理, 久能弘道 (2007):解決志向アプローチの教育現場での応用 (1) -付属学校におけるWOWW プログラムの導入と実践-. 北海道心理学研究, 30, 53.

田島美穂子, 相模健人 (2011):小学校におけるWOWWアプローチの効果に関する研究 -「楽しい学校生活を送るためのアンケート・Q-U」を用いて-. 日本心理臨床学会第30回大会発表論文集, 378.